

ハイライト：宮崎国際大学教育学部第8期生が卒業します。今号は第8期生の声を特集としました。第8期生の希望者は3年次から特別支援教育生ボランティアとして、小中学校で主に障がいのある児童生徒への支援を行いました。他にも、一部の学生は学習支援ボランティアとして、児童生徒を支援しています。



昨年度卒業式後の様子

## 宮崎国際大学教育学部ニュースレター

### 教育学部のあゆみと今後に期待すること

副学長・教育学部長 福田 亘博



私は、今年度末をもって学部長を退任することとなりました。この場をお借りして、これまでの教育学部の歩みと今後期待することについて述べたいと思います。

本学教育学部は、平成25年度に文部科学省へ設置申請を行い、平成26年度に認可を受けて開学しました。小学校・幼児教育の教員養成を開始した当初は、知名度が県内外で低く、学生定員を満たすことが難しい状況でした。しかし、平成29年度に初めて卒業生を輩出して以降、教員採用試験の合格率は着実に向上し、令和5年度・6年度にはほぼ100%の合格率を達成しました。それに伴い、学生定員充足率も100%を維持するようになりました。

この成果の背景には、PDCAサイクルの徹底した活用があります。具体的には、卒業生や受け入れ先の学校・施設からのアンケートを基に、カリキュラムの選択科目を必修化しました。また、「大学における理論と教育現場での実践」をより充実させるため、学校インターンシップを必修科目として導入しました。このインターンシップでは、通常の学級での指導経験に加え、宮崎市教育委員会と連携し、市内の小中学校の支援学級・通級での実習も行うことで、特別支援教育に関する実践的な学びを深める機会を提供しました。さらに、基礎学力向上のための補習を実施し、学生の学力強化にも努めました。

加えて、教員採用試験対策を強化するため、学内外の講師による対策講座を整備し、また一次・二次試験の合

格者および不合格者へのヒアリングを毎年実施することで、試験の課題を分析し、より効果的な対策を講じてきました。この結果、ほぼ万全の教員採用試験対策が確立され、上記に述べるような成果を上げることができました。また、公務員志望の学生に対しても同様の指導を行い、多くの学生が希望する職に就くことができました。

これらの成果は、学生自身の努力に加え、教育学部の教員や本学職員が一丸となって、同じ目標に向かって支援を続けてきた賜物です。改めて、深く感謝申し上げます。

近年、教員という職業は「ブラック」と言われることがあります。実際に現場で働く教員を対象としたアンケートでは、多くの教員が「素晴らしい職場である」と評価しています。なお、教育以外の業務の多さは依然として課題であり、改善の余地があります。これについて文部科学省も働き方改革プランを鋭意進めており、少しずつ状況は改善されつつあります。今後、高校生の目から見ても教員が魅力的な職業として認識されることを心から願っています。

最後に、宮崎国際大学教育学部が、これからも教育の質をさらに高め、地域社会に貢献できる人材を輩出し続けることを期待しています。教育は未来を創る力です。本学部で学ぶ学生が、その力を存分に発揮し、それぞれのフィールドで輝いていくことを心より願っております。

これまでのご支援、ご協力に深く感謝申し上げます。

### ご卒業おめでとうございます



教育学部講師 城戸 佐智子

卒業生の皆さん、大学生活はいかがでしたか？楽しいことも辛いこともたくさん経験し、また、たくさん学んだ4年間だったことでしょう。

これから皆さんは、「教えられる」立場から「教える」立場へと変わります。私も長年、「教える」仕事をしてきた中で、つくづく実感することがあります。それは、「教える」ためには「学び続けなければならない」ということです。これは、自分の専門に関する知識はもちろんのこと、他分野のことだったり人との関わり方だったりもします。また、「学ぶ」ということ

は「経験する」ということだと私は思っています。経験することでより深い知識が得られたり、漠然としたイメージが具現化できたりします。さらには、人の気持ちが分かることにも繋がります。これから皆さんは、失敗も成功も経験することでしょう。そのたびに得られた気持ちを大切にしてください。そして、その気持ちをぜひ子どもたちに伝えてください。自分の経験から出た言葉は、きっと子どもたちに届くでしょう。

子どもたちにとって、皆さんは学びの手本となる存在です。失敗を恐れず、様々なことに挑戦してください。応援しています。

## 卒業を控えた4年生の声

## 千里の道も一歩から



教育学部4年 杉原 春渚  
宮崎県公立小学校教員内定  
(宮崎県立宮崎西高等学校出身)

大学1年生のある朝、偶然にも7時半頃に学校へ行くと、熱心に勉強している先輩の姿を目にしました。その姿から、朝7時半までに学校へ行き、学習することを決意し、4年間その習慣を維持することができました。この習慣があったからこそ高い成績を残すことができたと思います。

好成绩を残せたこともあり、アドバイザーアシスタントや理数科基礎ゼミの講師役などの役割を任される機会に恵まれ、教育力を磨くことができました。また、大学2年生の夏休みには数学検定2級に挑戦し、合格を果たしました。その結果、数学検定ゼミの講師役も務めることができました。さらに、教育実習では20日間で20回以上の授業をさせていただき、教育実践力を着実に培いました。

このように、朝学習を糧とし、多くのことに挑戦したことで自己研鑽でき、教員採用選考試験に合格することができたと思います。大学生活を振り返ると「千里の道も一歩から」という言葉をまさに体現したと実感しています。

## 大学生活での学びを生かして

教育学部4年 久世 奈々加  
宮崎市職員(保育士・幼稚園教諭)内定  
(宮崎学園高等学校出身)



この4年間では、保育に関する知識だけでなく、現場で生かせる実践力も身に付けることができました。そのなかで、子どもの主体性を尊重することの重要性を学びました。大学4年間では、模擬保育という実践の場が何度もあり、指導案作成の段階から子どもが主体性を発揮できる環境を考えることで、少しずつ子ども主体の活動を展開できるようになったと感じています。模擬保育の振り返りでは、先生方や同級生などから様々な助言を頂けるため、自分自身にとって学びが深まるとても貴重な時間でした。

いよいよ4月からは、幼いころからの夢であった幼児教育に携わります。大学生活で学んだたくさんのことを生かして、子どもの主体性を尊重した保育を目指し、これから出会う子どもたちの育ちを支援していきたいです。

大学の4年間は、思っているよりもあっという間に過ぎていきます。自分の夢や目標を大切に、頑張ってください！

## 宮崎国際大学で学んだこと



教育学部4年 石崎 結大  
宮崎県公立小学校教員内定  
(宮崎県立宮崎工業高等学校出身)

「大学生は人生の夏休み」という言葉をよく聞きます。夢を叶えるための大学生活は、決して楽ではありませんでしたが、「人生の夏休み」と言えるような様々な経験や一生の思い出ができました。

実業高校出身ということで学業面での不安は絶えませんが、課題を克服し、小学校教員として内定をいただくことができました。だからこそ、宮崎国際大学は教員を志望する学生のための万全の支援体制が整っていると言えます。

特に、教員採用選考試験対策講座では、学内外の先生方が一丸となり、模擬授業や個人面接などについて徹底的に指導してくださいました。また、各教科教育法の講義を通じて、子どもへの発問などを吟味しながら授業を構想・実践したり、学友と授業の在り方について議論したりしたことで高い授業実践力を身に付けたと実感しています。

来年度からは、教員として何十年先も活躍し続けるために、自己研鑽を怠らず、継続的に努力していきます。

## 何事も挑戦し続ける先に…

教育学部4年 丸山 鈴奈  
JICA海外協力隊内定  
(宮崎学園高等学校出身)



私は4年間を通して、何事も挑戦することを大切にしてきました。例えば、大学祭の実行委員や学友会のメンバーとして学校行事の運営をしたり、地域のボランティア活動に積極的に参加したりしてきました。また、1年生の時から、先輩方が開講してくださっていた理数科基礎ゼミに参加し、自身の苦手教科であった数学や理科の克服にも努めてきました。

このような大学生活での様々な経験が、自身の人間性や教養を高めることに繋がったと感じています。さらに、私が志していたJICA海外協力隊の夢を叶えることができたのは、この4年間の学びがなければ掴み取ることはできなかったと思っています。

「見たことのない景色を見て、見たことのない自分に出会う」ためには、まずは挑戦する勇気を持ち、自分自身で一步を踏み出すという行動力が求められると考えます。長いようで短い4年間を無駄にせず、何事もトライ！し続け、皆さんの夢を叶えられるように頑張ってください。

## 学生作成記事

## 4年間の思い出と後輩へのメッセージ

教育学部3年生(藤原・日高)が4年生に思い出などをインタビューし記事を作成しました。

## 楽しかったこと

休みの期間が長いので、色々な場所を旅行しました。海外に行ったり、学友とコテージを借りて誕生会をしたりなど、家族や友達と楽しい時間を過ごしました。

また、実習も印象に残っています。学内で行う模擬授業や模擬保育とは違い、子どもたちを目の前にして研究授業や責任実習を行うため、自分が言ったことに子どもたちが反応してくれたことが今でも心に残っています。

## 一番思い出に残っていること

教員採用試験の二次対策とグループワークです。二次試験の模擬授業対策では、国際大学を卒業して教職に就いた先輩方にフィードバックをもらいました。改善点を意識しながらスキルを高めることができ、自信を持って本番に臨むことができました。

保育内容科目では、男女混合のグループで公園に行き、どんぐりやまつぼっくりを拾いながら交流を深め、良い仲間と切磋琢磨できました。

## 特別支援教育学生ボランティア(宮崎市教育委員会事業)

実際に小学校を訪問し、様々な子どもたちと関わる中で子どもの実態を知ることができ、教育実習ではこの経験を生かして子どもたち一人一人に合った声掛けや支援を行うことができました。このことは教職を目指す私たちにとってとても貴重な経験であると感じています。

## 頑張ったこと

週に1回、仲間と集まり、模擬授業を行う機会を設けていました。自主ゼミでは、指導案作成・模擬授業・事後検討会までの一連の流れを行い、互いに意見を交換し

ながら学びを深めました。自主ゼミでの学びが、教員採用試験の二次試験に生かされたと思います(小幼コース)。

頑張ったことは、模擬保育やピアノ、手遊びの練習です。大学での学びが、保育実習での大きな自信に繋がったと思います(幼保コース)。

## 後輩へのメッセージ

## 【コミュニケーション能力】

これから教育者を目指す上で、コミュニケーション能力が大切になります。教育には、人と人との繋がりが欠かせません。子どもや保護者、同僚、地域の方々との信頼関係を築く力が求められます。日々のグループワークやボランティア活動などを通して、様々な人と関わり、コミュニケーション能力を高めて欲しいと思います。

## 【今できることを計画的に行う】

大学生活は自由な時間が多いので、今できることを計画的に行って欲しいと思います。授業や課題以外にも、ボランティア活動や資格の勉強など、目標に向けた行動を始めることで、日々の努力が積み重なり、自信と成長に繋がると思います。



後列左から藤原百花(宮崎西高校出身)小野恵慎(宮崎西高校出身)外園ひかる(宮崎学園高校出身)日高里梨(宮崎南高校出身)前列左から向野友香(熊本県立第二高校出身)菊村美月(宮崎西高校出身)南村優海(宮崎南高校出身)

## 卒業論文発表会を終えて

教育学部4年 俵崎 優子  
東京都公立小学校教員内定  
(宮崎県立高鍋高等学校出身)



私は「小学校低学年における生命尊重の態度育成」をテーマに卒業研究に取り組みました。本研究では、生命観測定尺度を用いた児童アンケートと、小学校教員への調査を実施し、学級経営における

動植物の飼育・栽培の現状やその教育的効果を分析しました。研究を通して、飼育・栽培活動が児童の責任感や生命の尊さを育むことが明らかとなり、教科間の連携を強化した指導法の提案を行いました。

卒業論文発表会では、研究成果を整理し、自信を持って発表することができました。発表後の質疑応答では、先生方や学生からの質問や指摘を受け、研究の課題や新たな視点に気づくことができました。この経験を通じて、課題を見つけ解決策を考える力や、論理的に資料を整理・分析する力、そしてプレゼンテーション能力が向上したと実感しています。

今後は、研究で得た知見を生かし、生命尊重の態度を育む教育を実践できる教員を目指して努力していきたいと考えています。

## 卒業論文発表会講評

教育学部教授 渡邊 耕二



本学教育学部8期生の卒業論文発表会が行われました。専門分野の知識の獲得、解くべき課題の明確化と結論を導く問題解決力、A4一枚に研究を纏める書く力、分かりやすくスライドを作り、発表するプレゼンテーション力、指導教員と議論を重ねるコミュニケーション力、研究をやり抜く力、と卒業論文は4年間の学修の集大成です。

発表を終えて、学修成果を十分に発揮できなかったと思う人がいるかもしれません。ですが、卒業論文など、大学での学修成果は、4月以降にじわじわと実感するものだと思います。渡邊ゼミでいえば、全員が教育に関する統計データを分析しました。昨今、データサイエンスやAIの進展を背景に、小学校でも統計教育の充実が求められています。卒業論文で得たものは、算数の指導に繋がるだけでなく、データを通じて物事を読み解く力としても生きるはずで

卒業論文発表会、卒業論文執筆とそれらの過程を十分に振り返り、4年間の学修を確実に自分のものにしてください。それは5年後10年後に、自己研鑽の材料として返ってきます。皆さんが各分野で大活躍することを期待しています。

〒889-1905 宮崎県宮崎市清武町加納丙1405番地  
電話:0985-85-5931 FAX:0985-84-3396



国際教養学部 比較文化学科  
教育学部 児童教育学科

## 入試広報部からのお知らせ

お問合せ先

TEL 0120-85-5931  
MAIL admissions@miu.ac.jp

### EVENT情報

#### オープンキャンパス 開催月：7・8月（予定）

内容：学部説明、体験授業、卒業生・在学生体験発表、学食体験、個別相談会 など

#### 週末キャンパス見学会&相談会 開催回数：年8回 開催時間：10:00~12:00

内容：学部説明、入試相談、受験対策講座、キャンパスツアー など

※日程等の詳細は決定次第本学HPにてお知らせします。

個別の見学会・相談会も受け付けております。ご希望の方は事前に入試広報部までご連絡下さい。

オープンキャンパス・  
週末キャンパス見学会&相談会  
についてはこちらで詳細を  
ご確認ください。



YouTube



### LINE相談受付中

「入試制度について知りたい」など、見学会に行くことが出来ない、という高校生・保護者の方のために、公式LINEアカウントのチャット機能をオープンしています。お気軽にお問合せください。



QRコードを  
読み込んでお友だ  
ち追加してね！



### 学習支援ボランティアでの気づき

教育学部2年 菅 紗理咲  
(宮崎日本大学高等学校出身)



私が学習支援ボランティアを通して学んだことは、一人ひとりの児童生徒に寄り添って、教師も楽しく学習することの大切さです。子ども達には個性があり、好きな教科だけではなく、地図記号や魚の種類といった、それぞれ興味を引くものがあることに気がきました。その気づきを生かし、英語の文法や暗記につまずいている子には、その子の趣味や将来の夢などを質問して例文を作るなど、工夫をして教えることができるようになりました。

そうすると、学力向上だけではなく、児童生徒との信頼関係を築くことにもなり、心を打ち解けてくれる姿に嬉しくなることも多々あります。しかし、少し高度な問題や苦手教科で、児童の些細な疑問に上手く答えられず、自分の実力不足を感じることもありました。今の時代は「多様性」とよく言われているため、その多様性を最大限に発揮できるように指導ができるようになりたいです。

### 大学3年前倒し選考

#### 大学3年生チャレンジ受験（宮崎県）

学生教職支援センター長 有嶋 誠



文部科学省は、近年の教員志願者の減少により、教師志願者の増加を図り、質の高い教師の確保に繋げるために、教員採用試験の時期や方法について「早期化」「複数回実施」という方向性を提示しました。「複数回実施」とは、教員採用試験において、筆記試験の一部を大学3年生で受験できる3年前倒し試験と例年実施している春季から夏季の試験に加えて、秋季から冬季にかけて追加的に試験の機会を設けるなどの取組のことです。

2024年の3年前倒し試験は、全国41自治体で実施され、3年生15,379名(※)が志願しました。九州では、福岡県、佐賀県、鹿児島県、北九州市が実施し、宮崎県も今年6月の教員採用試験で「大学3年生チャレンジ受験」という名称で初めて実施されます。試験内容は教職教養のみで合格すると4年生で受験する教職教養の試験は免除となります。なお、前倒し受験が不合格でも4年生で教職教養の試験に再び挑戦することができます。

本学では、教育学部2年生7名が希望し、昨年の夏休みから3年生と一緒に教員採用試験のための対策講座を熱心に受講しているところです。頑張れ2年生！合格を祈ります。

※「教職課程レポート」2024年秋号（共同出版）